慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序：特集に寄せて
Sub Title	Forward
Author	渡辺, 秀樹(Watanabe, Hideki)
Publisher	三田哲學會
Publication year	2001
Jtitle	哲學 No.106 (2001. 3) ,p.i- ii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集変容する社会と家族
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000106-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序：特集に寄せて

本号は，「変容する社会と家族」というテーマで編まれた特集号である．

掲載された諸論考は，変容する社会と家族への多様な接近の試みである．

現実の社会と家族の変化に呼応するように，家族社会学も大きな変化のなかにあるといってよいだろう．家族社会学が狭い領域に閉じこもることを許さない現実がある．社会学のひとつの下位領域である家族社会学は，その他の社会学の下位領域，たとえば労働社会学や教育社会学，あるいは医療社会学などとのより積極的な連携が必要であろう．またさらに，社会学という領域を超えて，政治学や経済学，人口学などの他の学問との交流あるいは貢献が求められているというのが現状であろう．

家族社会学自体も時代を追ってみれば，まさに変化のプロセスとして捉えることができる．とくに1970年代以降，大きなパラダイムの展開があったとみてよいだろう．それには，歴史社会学（社会史／歴史人口学を含む）やフェミニズムの影響が大きかったし，社会学内部でも構築主義などのあらたな対抗的／相補的方法の刺激がある．

家族社会学は，このようなあらたな対抗的／相補的方法の刺激を吸収しつつ，ライフコース研究あるいはネットワーク研究やソーシャルサポート研究，ジェンダー研究といった家族社会学の近接・交差領域と出会うことで，量的／質的の両面において発展を遂げてきたし，より一層の発展が求められている．

他方，21世紀社会が，これまでとは異なるあらたな様相を示すなかで（グローバリゼーション／高度情報化／遺伝子革命など），当然，社会と家

族の関係は変わり，家族自体も変わると考えるのが妥当であろう．社会と家族と個人との関係はどのようになるのか？，その関係のなかで家族はどうなるのか？，そして個人は？….

本特集号は，家族社会学に関心をもつ人だけでなく，変容する社会と家族に関心を持つ多くの人々に向けて編まれた．

本号には，昨年まで文学部人間科学専攻の教授として，臨床心理学およびコミュニティ心理学の分野で，研究と教育に多大な業績を示された山本和郎名誉教授の定年退職を記念するシンポジウムの記録が掲載されている．氏の業績もまた，本特集テーマと決して無縁ではない．それどころか，大きなかかわりを持つ．掲載を喜びたい．

（文学部人間科学専攻／大学院社会学研究科　渡辺秀樹）